

琵琶湖透析医会（滋賀県支部）だより

有村哲朗

1 琵琶湖透析医会設立の経緯

琵琶湖透析医会は2018年12月4日に日本透析医会滋賀県支部として承認を受けました。初代会長の独立行政法人地域医療機能推進機構滋賀病院の有村と申します。

滋賀県はこれまで近畿地区で唯一、日本透析医会支部のない県でした。お隣の、京都透析医会は大変長い歴史があり、2019年には第39回京都透析医会総会・学術集会が開催されています。滋賀県では腎・透析関連の研究会としては、滋賀医科大学の泌尿器科、外科（旧第1外科）、内科（旧第3内科）の3講座が中心となり、滋賀腎・透析研究会が設立されました。1980年に第1回の研究会が当時の泌尿器科友吉唯夫教授を会長に開催され、以後年1回行われています。その後滋賀腎・透析研究会は日本透析医学会の地方会として発展し、滋賀県内の多くの透析施設が参加する唯一の研究会となり、2019年には第40回の開催となりました。滋賀県では透析医療に関しては、大学ならびに市民病院などの公的病院において多く行われていたためか、結局透析医会支部は設立されませんでした。

阪神淡路大震災後、滋賀県は、人工透析・クラッシュシンドローム対応マニュアルを作成しましたが、各透析施設には周知されておらず、実効性に乏しいものでした。その後、災害時のネットワークの必要性を求める機運が高まり、2007年に滋賀腎・透析研究会、琵琶湖災害時透析ネットワークのホームページを立ち上げました。このホームページ作成を機に行政との連携も行われるようになり、2008年には大津地域透析施設災害時シミュレーション訓練を行いました。その後、東日本大震災もあり、滋賀県健康福祉部と協議を重ね、滋賀県全域に広げ、2012年に第1回滋賀県透析災害情報伝達シミュレーション訓練を滋賀県、保健所、滋賀腎・透析研究会、滋賀県腎臓病患者福祉協会、滋賀県臨床工学技士会、滋賀透析看護セミナーの共催で開催いたしました。その後年1回訓練を重ねています。日本透析医会の支部ではなかったのですが、日本透析医会 災害時情報ネットワークのホームページリンクにも琵琶湖災害時透析ネットワークとしてリンクを張らせてもらっていました。

このような状況の中、滋賀県支部設立のきっかけとなったのは、日本透析医会理事の山川智之先生の次の一言でした。“災害対策を進めるならまずは、日本透析医会の支部を作ってください”，と、研究会活動として、「災害時透析医療を考える会」を開催していたのですが、山川先生にご講演し



図1 ホームページ

ていただいた折のことです。これを機に、滋賀腎・透析研究会の賛同を得ることができ、研究会の災害部門が独立する形で、琵琶湖透析医会として滋賀県支部が設立されました。現在のホームページです（図1）。

2 2019年度活動状況

2-1 災害訓練

① 令和元年度滋賀県総合防災訓練 2019年9月1日

大規模広域災害時に滋賀県庁防災センターに設置される災害対策本部において、災害派遣医療チーム（DMAT）、災害派遣精神医療チーム（DPAT）や小児・周産期リエゾンとともに人工透析調整班として患者移送訓練を行った。

② 第7回滋賀県透析災害情報伝達シミュレーション訓練 2019年11月19日

参加機関：県内41透析医療機関、滋賀県、各保健所、滋賀腎・透析研究会、滋賀県臨床工学技士会、滋賀透析看護セミナー、滋賀県腎臓病患者福祉協会

内容：滋賀県「人工透析・クラッシュシンドローム担当マニュアル」に基づき、「琵琶湖透析医会災害時透析ネットワーク」「日本透析医会 災害時情報ネットワーク」を利用した災害情報収集伝達および患者移送等の災害支援の方法手順の確認を行った。

2-2 行政との連携

① 台風5号2019年7月22日、台風10号2019年8月16日、台風19号2019年10月14日

琵琶湖透析医会災害時透析ネットワークを使用して被災情報を入力し、行政へ報告した。滋賀県下 41 施設中入力は各々 14 施設, 24 施設, 39 施設で, すべて被災なし。

② 人工透析災害時支援関係者会議 2019 年 10 月 31 日

参加：滋賀県, 各保健所, JCHO 滋賀病院腎センター, 滋賀県臨床工学技士会, 各圏域サブコーディネーター

- 内容：(1) 滋賀県における人工透析患者災害時支援体制について
- (2) 琵琶湖透析医会災害時透析ネットワークについて
- (3) 滋賀県災害時人工透析対応マニュアル（案）について
- (4) 第 7 回透析災害情報伝達シミュレーション訓練について

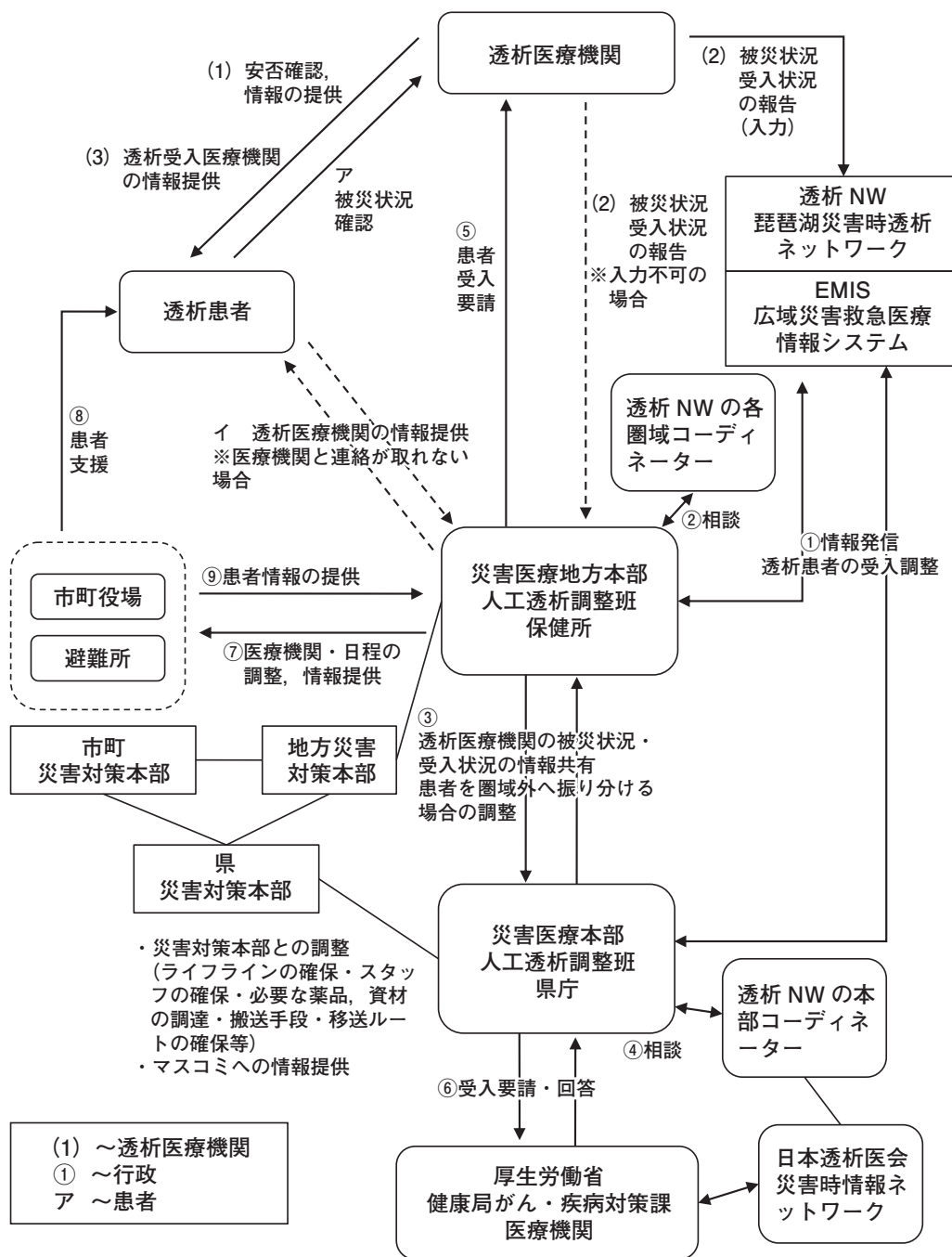


図 2 災害時人工透析対応フロー図
(滋賀県災害時人工透析対応マニュアルより)

各圏域におけるハザードマップと関係者の共通認識を得ることの問題や、参加各施設の停電・断水時の具体的な対応、患者移送における問題点、さらに第7回滋賀県透析災害情報伝達シミュレーション訓練を踏まえた課題等について意見交換を行った。

2-3 研究会活動

第40回滋賀腎・透析研究会

2019年9月8日 ピアザ淡海滋賀県立県民交流センター

一般演題数：33題 市民公開講座：“あなたの腎臓は大丈夫？ 糖尿病から腎臓を守ろう”

総会にて琵琶湖透析医会活動について発表した。

3 今後の課題

滋賀県災害時人工透析対応マニュアルのフロー図を図2に示します。滋賀県には7つの2次医療圏があり、災害時には各医療圏の保健所が災害医療地方本部の役割を果たすことになっています。各圏域に透析中核病院を決め、医師ならびに臨床工学技士がコーディネーターとなり、患者移送等の可否決定をすることになっており、毎年訓練を行っています。しかし、各圏域の保健所とコーディネーターとの交流はこれまでほとんどなく、また保健所の担当者も交代があるため、定期的な顔の見える連携の機会を確保する必要があると考えています。また、関係者の通信媒体として現在、Line@による連絡網の構築を急いでいます。さらに、断水時の給水支援に市町の水道事業体との連携など具体的な対応に対して、行政とも協力し体制を整えていきたいと思っています。